

秋田県埋蔵文化財センター年報

33

平成26年度

2016・3

秋田県埋蔵文化財センター

シンボルマークは、北秋田市白坂（しろざか）遺跡出土の
「岩佩」です。

縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ7cm、凝灰岩。

序

秋田県教育委員会が昭和49年、弘田柵跡調査事務所を設置して弘田柵跡の学術調査を開始してから平成26年度で40周年になります。その後事務所は、昭和56年に開設された秋田県埋蔵文化財センター内に移転しました。今年度当センターは、主催事業として、弘田柵跡調査40周年を記念しての企画展や講演会を開催し、広く県民の皆様にこれまでの調査の経緯や成果を御報告いたしました。これらの事業を通して本県を代表する史跡に愛着と誇りを持っていただけたものと確信しております。

一方、平成26年度に当センターが実施した調査は、雄物川河川改修事業や県道建設事業に伴う発掘調査が5遺跡、大館工業団地造成事業や成瀬ダム建設事業などに係る確認調査が3遺跡です。発掘調査を行った遺跡のうち、峰吉川中村遺跡では、平安時代の祭祀で使われたと考えられる須恵器、土師器が多数見つかりました。さらに、井戸跡やカマド状遺構などに伴う中世集落が形成されていたことも分かりました。西板戸遺跡では、鎌倉時代の陶器や室町時代から江戸時代の陶磁器や銭貨が出土し、井戸跡や掘立柱建物跡、カマド状遺構などが見つかりました。小勝田館跡では、縄文時代後期の土器が埋納された土坑や底面に溝があるフラスコ状土坑などが見つかりました。また、十和田火山噴火以前の平安時代の竪穴建物跡も見つかりました。これらの発掘調査の見学会には多くの地元の皆さんが参加され、土地に刻まれた地域の歴史の奥深さに関心を示すとともに、自分たちの祖先に繋がる人々が暮らした時代に思いを馳せる機会となりました。

活用事業では、前述の企画展「弘田柵跡－巨大城柵の実像に迫る－」や弘田柵跡調査40周年記念講演会に、県内外から多数の参加がありました。また、「古代発見！バスツアー」や「ふるさと考古学セミナー」などにも多くの参加者があり、各種活用事業も計画どおり実施することができました。

当センターが、これまで継続して行ってきた埋蔵文化財の調査や活用事業は、本県の文化財保護思想の普及に大きな役割を果たしてきたと考えております。今後とも当センターの事業につきましては、一層の御理解と御支援をいただきますようお願い申し上げます。

平成27年3月

秋田県埋蔵文化財センター

所 長 京 久 夫

目 次

序

目次

I	沿革	1
II	組織・施設	1
III	秋田県埋蔵文化財センター平成26年度の歩み	2
IV	事業の概要	3
1	発掘調査	3
2	確認調査	3
3	埋蔵文化財発掘調査	4
	(1)平成26年度秋田県内発掘調査遺跡(位置図・一覧表)	4
	(2)発掘調査概要	6
	峰吉川中村遺跡	6
	西板戸遺跡	8
	小勝田館跡	10
	貝保遺跡	12
	窪遺跡	14
4	刊行物一覧	16
5	活用・普及事業	18
	(1)秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会	18
	(2)遺跡見学会	19
	(3)地域報告会	20
	(4)学校(教育)サポート	21
	①セカンドスクール	21
	②ボランティア・職場体験(インターンシップ)	21
	③出前授業	22
	(5)主催事業	22
	①企画展	22
	②講演会	23
	③ふるさと考古学セミナー	23
	④ふるさと考古学セミナー展示会	25
	⑤古代発見!バスツアー	26
	(6)共催・機関連携等による普及事業	28
	①農業科学館まつり	28
	②土器に生ける秋の草花展	28
	③あきた県庁出前講座	28
	④美の国アクティブカレッジ「発掘!考古ゼミ」	29
	⑤親子で作ってみよう縄文土器教室	29
	(7)その他	29
	①所蔵資料・古代体験キット・ビデオの貸し出し実績	29
	②センター施設の開放と展示	30
	③図書整理・図書一般公開	30
	(8)講演・研究論文等	30
6	運営協議会	31
V	平成26年度研修事業	34
1	研修受け入れ	34
2	職員研修	34
VI	職員名簿	35

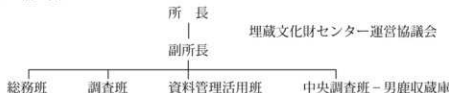
奥付

I 沿革

昭和55年2月	秋田県埋蔵文化財センター設立計画公表
昭和55年10月26日	建設工事開始
昭和56年8月31日	センター、第1収蔵庫完成
昭和56年10月1日	設置条例施行、職員発令、業務開始
昭和56年11月2日	落成記念式典挙行
平成5年1月	第2収蔵庫完成
平成10年4月2日	鷹巣町に秋田北分室開設
平成11年12月20日	秋田市に秋田整理室開設
平成12年4月4日	秋田整理室が秋田中央分室となる
平成13年4月2日	機構改革により南調査課、北調査課、中央調査課の3課体制となる
平成13年6月20日	秋田県甘肅省文化交流事業により交流員の相互交流開始
平成14年3月2日	秋田県埋蔵文化財センター設立20周年記念式典挙行
平成15年10月17日	秋田県甘肅省文化交流事業磨嘴子遺跡合同発掘調査開始
平成15年10月30日	センター屋根、外壁、内部大規模改修工事
平成17年4月1日	男鹿市に中央調査課男鹿整理収蔵室開設
平成20年3月31日	北調査課、中央調査課閉課
平成20年4月1日	機構改革により総務班・調査班・資料管理活用班・中央調査班の4班体制となる。
平成22年7月1日	秋田市に中央調査班移転
平成24年3月6日	秋田県埋蔵文化財センター設立30周年記念式典挙行

II 組織・施設

1 組織



2 施設の概要

本所（総務班・調査班・資料管理活用班）

所在地	〒014-0802 秋田県大仙市弘田字牛嶋20	
	TEL 0187-69-3331 FAX 0187-69-3330	
敷地面積		6,962.000㎡
本所建物	鉄筋コンクリート2階建	1,527.304㎡
第1収蔵庫	鉄骨造平屋建	360.000㎡
第2収蔵庫	鉄骨造平屋建	297.680㎡
電気・ポンプ室	平屋建	59.780㎡

中央調査班

所在地	〒010-1621 秋田県秋田市新屋栗田町11-1	
	TEL018-893-3901 FAX 018-893-3899	
建物	鉄筋コンクリート平屋建	2,141.000㎡

男鹿収蔵庫

所在地	〒010-0502 秋田県男鹿市船川港比詰字餅ヶ沢200	
敷地面積		55,521.000㎡
建物	鉄筋コンクリート3階建	7,524.360㎡

Ⅲ 秋田県埋蔵文化財センター平成26年度の歩み

【平成26年】

- 4月1日 平成26年度秋田県埋蔵文化財センター新任式(中央調査班)
4日 平成26年度秋田県埋蔵文化財センター新任式(本所)、第1回全体職員会
21日 窪遺跡確認調査開始(～4/25)、西板戸遺跡発掘調査開始(～9/9)
5月8日 峰吉川中村遺跡発掘調査開始(～9/19)
26日 小勝田館跡発掘調査開始(～11/7)
29日 全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会(～5/30、会場：山梨県甲府市)
29日 定期監査
6月10日 第1回古代発見！バスツアー「春の古代城柵探訪コース」
秋田市内発→井岡遺跡・客殿森遺跡→上谷地遺跡・新谷地遺跡・横山遺跡→秋田市内着
12日 第2回古代発見！バスツアー 同上
18日 第1回埋蔵文化財センター運営協議会
7月4日 第1回ふるさと考古学セミナー展示会「縄文前期の世界」(～8/17：秋田県立図書館)
6日 第1回ふるさと考古学セミナー「縄文前期の北と南」(秋田県立図書館)
25日 埋蔵文化財センター職員技術研修会(会場：峰吉川中村遺跡)
8月2日 西板戸遺跡見学会
22日 第2回ふるさと考古学セミナー展示会「縄文前期の世界」(～9/24：大館郷土博物館)
28日 南外小学校発掘調査見学(西板戸遺跡)
30日 峰吉川中村遺跡見学会
9月1日 企画展開始「弘田柵跡～巨大城柵の謎を探る～」(～H27 3/1)
7日 弘田柵跡調査40周年記念講演会(会場：仙北ふれあい文化センター)
13日 第2回ふるさと考古学セミナー「池内遺跡をめぐる」(大館郷土博物館)
16日 貝保遺跡発掘調査開始(～10/10)
27日 小勝田館跡見学会
29日 窪遺跡発掘調査開始(～10/1)、トクラ遺跡確認調査開始(～10/10)
30日 全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会文化庁陳情
10月2日 第3回ふるさと考古学セミナー展示会「古代のにかほ」(～10/29：仁賀保公民館)
6日 片貝遺跡確認調査開始(～11/13)
7日 第3回 古代発見！バスツアー「秋の古代城柵探訪コース」
秋田市内発→陣館遺跡→埋蔵文化財センター→弘田柵跡→秋田市内着
18日 第3回ふるさと考古学セミナー「古代のにかほ」(仁賀保公民館)
11月1日 藤株遺跡地域報告会(北秋田市沢口公民館)
21日 全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会第2回役員会(会場：東京都 都道府県会館)

【平成27年】

- 1月26日 研修報告会(中央調査班)
2月18日 第2回 埋蔵文化財センター運営協議会
3月8日 平成26年度 秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会(会場：秋田県生涯学習センター)
3月27日 第2回全体職員会、離任式

IV 事業の概要

1 発掘調査

平成26年度に秋田県埋蔵文化財センターが行った各事業別の発掘調査は以下のとおりである。

国土交通省関係

- 雄物川上流河川改修事業(西板戸地区)：西板戸遺跡
- 雄物川上流河川改修事業(中村芦沢地区)：峰古川中村遺跡
- 雄物川上流河川改修事業(寺館大巻地区)：窪遺跡

秋田県建設交通部関係

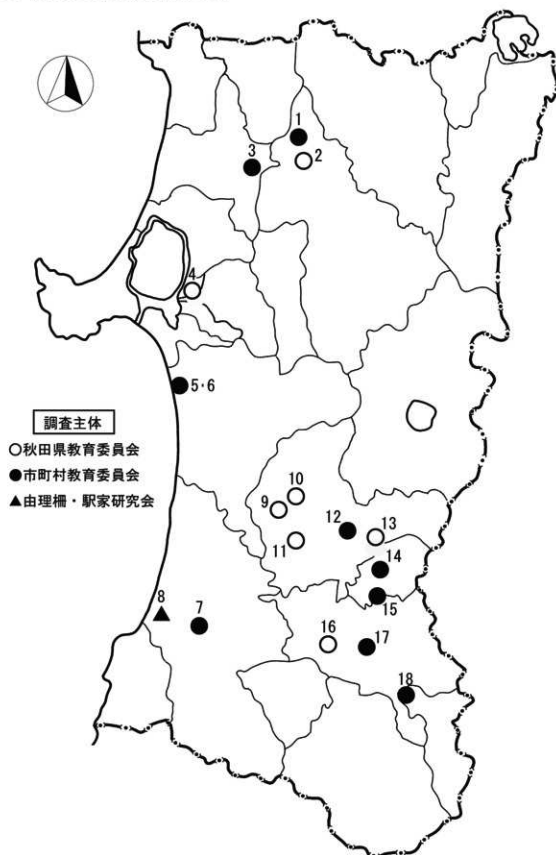
- 一般県道大館能代空港西線建設事業：小勝田館跡
- 主要地方道秋田八郎潟線建設事業：貝保遺跡

2 確認調査

	事業名	遺跡名・所在地	調査期間	調査担当
1	大館工業団地造成事業	片貝遺跡 (大館市)	10月6日～11月13日	小林 克 利部 修 策瀬 圭二 谷地 薫 袴田 道郎
2	雄物川上流河川改修事業 (寺館大巻地区)	窪遺跡 (大仙市)	4月21日～4月25日	谷地 薫 佐藤 淳
3	成瀬ダム建設事業	トクラ遺跡 (東成瀬村)	9月29日～10月10日	伊豆 俊祐 赤星 純平 富樫 那美

3 埋蔵文化財発掘調査

(1) 平成26年度秋田県内発掘調査遺跡



平成26年度県内発掘調査遺跡位置図

平成26年度県内発掘調査遺跡一覧表

No	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積 (㎡)	調査主体者	調査原因	主な時代：性格
1	胡桃館遺跡	北秋田市稲子字胡桃館	2/27	50	北秋田市 教育委員会	学術調査	平安：集落跡
2	小勝田館跡	北秋田市脇神字館野	5/26～11/7	11,000	秋田県 教育委員会	県道建設事業	縄文・平安・中世： 集落・狩猟場・ 集落跡・城館跡
3	下田平遺跡	能代市二ツ井町麻生字下田平	6/30～7/9	80	能代市 教育委員会	は場整備事業	縄文：散布地
4	貝保遺跡	八郎浜町川崎字貝保	9/16・ 9/29～10/10	90	秋田県 教育委員会	県道建設事業	奈良・平安・中世： 集落跡
5	史跡秋田城跡 (第104次)	秋田市寺内晩山	4/16～8/7	588	秋田市 教育委員会	学術調査	奈良・平安： 城館官衙跡
6	史跡秋田城跡 (第105次)	秋田市寺内晩山	8/8～11/10	191	秋田市 教育委員会	学術調査	奈良・平安： 城館官衙跡
7	滝沢城跡	由利本荘市前郷字滝沢館	5/26～7/25	1,015	由利本荘市 教育委員会	市営団地建替	江戸：城館跡
8	井岡遺跡 (第2・3次)	由利本荘市西目町西目字井岡	5/9～5/19 10/19～11/4	187	由理 欄・ 塚家研究会	学術調査	奈良・平安： 集落跡
9	窪遺跡	大仙市大倉字瀬ノ上	9/29～10/1	120	秋田県 教育委員会	雄物川上流河川 改修事業	縄文：墓地
10	峰吉川中村遺跡	大仙市協和峰吉川中村	5/8～9/19	8,390	秋田県 教育委員会	雄物川上流河川 改修事業	平安・中世・近世： 集落跡・墓地
11	西板戸遺跡	大仙市南外字西板戸	4/21～9/9	4,000	秋田県 教育委員会	雄物川上流河川 改修事業	中世・近世： 集落跡・墓地
12	上野Ⅱ遺跡	大仙市高岡上郷字上野	4/11～5/30	1,000	大仙市 教育委員会	電気関係設備建設	縄文・弥生・平安： 集落跡
13	史跡弘田遺跡 (第148次)	大仙市弘田字仲谷地	6/2～8/15	126	秋田県 教育委員会	学術調査	平安：城館官衙跡
14	廻ヶ崎城跡	美郷町六郷東根字北廻ヶ崎	9/3～11/30	70	美郷町 教育委員会	学術調査	平安・中世： 城館跡
15	陣館遺跡	横手市金沢中野字根小屋	7/1～11/28	140	横手市 教育委員会	学術調査	平安：城館跡
16	蝦夷塚北遺跡	横手市雄物川町南形字葛巻	10/30～11/14	117	秋田県 教育委員会	学術調査	奈良・平安： 集落跡
17	下板沢遺跡	横手市外目字下板沢	5/7～6/30	300	横手市 教育委員会	は場整備事業	平安：集落跡
18	上輪遺跡	東成瀬村田子内字菅生田輪・ 字上輪	7/1～8/21	170	東成瀬村 教育委員会	学術調査	縄文：集落跡

※番号は4頁の図に対応する。

(2) 発掘調査概要

みねよしかわなかむら

峰吉川中村遺跡

【調査要項】

所在地	秋田県大仙市協和峰吉川字中村15-8ほか
調査期間	平成26年5月8日～9月19日
調査面積	8,390㎡
遺跡の時代	平安時代、鎌倉時代、室町時代、江戸時代
遺跡の性格	集落跡、墓地
事業名	雄物川上流河川改修事業（中村芦沢地区）
事業関係機関	国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所
調査担当	谷地薫、佐藤淳、山村剛、富樫那美

【調査概要】

検 出 遺 構					主な出土遺物
平安時代	土坑	10基	焼土遺構	3 基	平安時代 須恵器 土師器 墨書土器（須恵器環） 鎌倉時代・室町時代 珠洲系陶器 青磁 木製品（木簡 漆器碗 箸 曲物 鈎） 銭貨（熙寧元寶 元豊 通寶 洪武通寶） 江戸時代 陶磁器
鎌倉時代	井戸跡	13基	カマド状遺構	1 基	
	土坑	1 基			
室町時代	井戸跡	2 基	土坑	1 基	
中 世	竪穴建物跡	2 棟	カマド状遺構	31基	
	火葬墓	5 基	火葬遺構	4 基	
江戸時代	掘立柱建物跡	4 棟	竪穴状遺構	7 基	
	溝跡	3 条	井戸跡	2 基	
	土坑	23基			
時期不明	掘立柱建物跡	1 棟	井戸跡	23基	
	焼土遺構	7 基	柱列跡	3 条	
	土坑	39基	溝跡	5 条	
	柱穴様ビット	1,048基			

峰吉川中村遺跡は、JR奥羽本線峰吉川駅から東南東約1.7kmに位置し、雄物川の右岸、標高約17mの微高地に立地する。調査の結果、平安時代初期、中世、江戸時代の遺構、遺物を検出した。

微高地から北側の緩斜面では、平安時代初期の祭祀土坑群を検出し、周辺からは、須恵器環・甕・横瓶、土師器甕などが多数出土した。須恵器環にある墨書は、17例中9例が「田」である。

調査区西側では、井戸跡を30基以上検出し、そのうちの13基からは13世紀代の珠洲系陶器や中国産青磁碗の破片が出土した。珠洲系陶器の中には、大畑・松山腰窯製品に特徴的なタキ目のあるものも含まれる。また、井戸跡からは、一種の木簡である文章が墨書された円形の板も出土した。文字のほとんどは片仮名で、一部に簡単な漢字が混じる。さらに、漆器碗、箸、曲物の桶、木製の鈎等も出土した。鈎は、木の枝の分岐を利用し、上端に紐が結べるように加工を施したものである。

井戸跡以外の中世の遺構には、カマド状遺構、火葬骨を穴に埋納した火葬墓、遺体を茶匙に付した場所である火葬遺構、出入り口のスロープが付いた竪穴建物跡等がある。2棟検出した竪穴建物跡は、ともに床面中央部に地床炉があり、作業小屋と推定される。

発掘調査によって、本遺跡では、平安時代初期から中世には断続的に集落が営まれ、江戸時代初期以降は、現代まで集落が継続してきたことが判明した。

遺跡遠景(南から)



曲物の桶が出土した
井戸跡

(東から)



文章が墨書された板
(木簡)の赤外線写真真



にしたいど 西板戸遺跡

【調査要項】

所在地	秋田県大仙市南外字西板戸81-2ほか
調査期間	平成26年4月28日～9月9日
調査面積	4,000㎡
遺跡の時代	中世・近世
遺跡の性格	集落跡・墓地（中世・近世）
事業名	雄物川上流河川改修事業（西板戸地区）
事業関係機関	国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所
調査担当	赤星純平、伊豆俊祐

【調査概要】

検出遺構					主な出土遺物
中世	掘立柱建物跡	7棟	焼土遺構	1基	中世 陶器 中国産磁器 木製品 石製品 鉄製品 銭貨
	柱穴列	1条	墓	9基	
	井戸跡	13基	性格不明遺構	2基	
	カマド状遺構	14基			
近世	掘立柱建物跡	1棟	柱穴列	1条	近世 陶磁器 銭貨 漆器 土人形
	竪穴状遺構	1棟	墓	4基	
近代	柱穴列	1条			
	掘立柱建物跡	2棟	溝跡	2条	
時期不明	柱穴列	1条	柱穴様ビット	140基	
	井戸跡	4基	性格不明遺構	2基	
	土坑	39基			

西板戸遺跡は、J R奥羽本線神宮寺駅から西へ約4km、雄物川支流の櫛岡川左岸、標高約20mの段丘上に立地する。調査の結果、中世・近世の遺構・遺物などを検出した。

鎌倉時代から室町時代にかけての中世の遺構としては、掘立柱建物跡・井戸跡・カマド状遺構・墓を検出した。鎌倉時代の建物は調査区中央南部に、室町時代の建物は調査区北側と中央に濃密に分布すると推定される。井戸やカマド状遺構は建物に隣接した地点ではなく、各建物間の広場のような場所に分布する。このような各施設から成る構造は基本的に鎌倉時代から室町時代にかけて共通するものと見られる。さらに室町時代には、調査区南部に墓地も形成される。

近世の江戸時代の遺構としては、掘立柱建物跡・竪穴状遺構・墓を検出した。掘立柱建物跡、竪穴建物跡、墓は調査区中央北部に集中する。墓は棺の痕跡が見つかっており、被葬者を木棺に納めて土葬したと考えられる。棺は桶を利用したものと木箱状のものがあったと推定される。これらの墓では、棺の中に素焼きの土人形や寛永通宝などの銭貨、漆器などを副葬していた。

調査の結果、西板戸遺跡は鎌倉時代に集落が形成され、室町時代、江戸時代にも集落が営まれていたことが判明した。明治時代以降の近代の遺構・遺物も存在し、最終的には現在の西板戸集落に連続するものと想定される。

遺跡遠景(北東から)



室町時代の掘立柱建物跡
(北東から)



江戸時代の墓跡
(南から)



おがただて 小勝田館跡

【調査要項】

所在地	秋田県北秋田市脇神字館野22ほか
調査期間	平成26年5月26日～11月7日
調査面積	11,000㎡
遺跡の時代	縄文時代 平安時代
遺跡の性格	縄文時代：墓域、狩猟場 平安時代：集落
事業名	一般県道大館能代空港西線建設事業
事業関係機関	秋田県北秋田地域振興局建設部
調査担当	村上義直、関向昌之、袴田道郎、高橋忠彦、山田祐子

【調査概要】

検出遺構					主な出土遺物
縄文時代	土坑	12基	フラスコ状土坑	3基	縄文時代 土器 土製品 石器
	陥し穴状遺構	2基	土器埋設遺構	3基	
	石器製作跡	1か所	遺物集中地点	3か所	
平安時代	竪穴建物跡	3棟	掘立柱建物跡	1棟	平安時代 土師器 須恵器 土製品
	土坑	2基			
時期不明	焼土遺構	1基			
	柱穴様ビット	96基			

小勝田館跡は秋田内陸縦貫鉄道小ヶ田駅から北西0.5km、大野台台地の北端部に立地し、遺跡の南東0.4kmには、4つの環状列石が確認された国指定史跡の伊勢堂岱遺跡が位置する。

遺跡の現況は林地と休耕地であり、標高45m前後の起伏の少ない地形となっている。調査区から50m北側は高さ15mの段丘崖となっており、直下には小猿部川支流の湯車川が西流している。

調査の結果、中世の遺構・遺物は確認されず、縄文時代と平安時代の遺跡であることが判明した。

縄文時代については、早期から晩期の遺物が出土しているが中心は後期前葉であり、主に墓域として利用されたと考えられる。墓域を形成する遺構には、小土坑4基と土器埋設遺構4基がある。小土坑は、径60cm前後で地山を掘り込み、底面付近に完形に近い土器が埋納されているが、土器以外の遺物はみられない。土器埋設遺構は、遺物包含層中に土器を斜位に埋設したもので、土器内部からの遺物の出土はみられない。両遺構とも、時期は縄文時代後期前葉と考えられる。ほぼ同時期の伊勢堂岱遺跡との比較により、縄文時代後期の周辺地域の土地利用のあり方が見えてくると考えられる。

平安時代については、9世紀後半から10世紀前葉に集落として利用されていたことが判明した。遺構は、竪穴建物跡が3棟検出され、このうちの1棟は一辺が6mほどの方形で南側にカマドが付設され、さらに桁行1間（3.2m）以上×梁行2間（4.6m）の掘立柱建物跡が南に繋がる。9世紀後半から10世紀前葉の遺物が出土していることや、埋土に十和田a火山灰が堆積していることから、この竪穴建物は西暦915年以前に廃絶されたと考えられる。他の2棟も軸方向や出土遺物から、同時期と考えられる。今後、十和田火山噴火後の鷹巣地区の集落との比較検討が必要である。

調査区遠景
(北側上空から)



土器が埋納された小土坑
(南から)



掘立柱建物跡と繋がる
竪穴建物跡(北から)



かいほ
貝保遺跡

【調査要項】

所在地	秋田県南秋田郡八郎潟町川崎字貝保99-3ほか
調査期間	平成26年9月16日～10月10日
調査面積	90㎡
遺跡の時代	奈良・平安時代・中世
遺跡の性格	集落跡
事業名	主要地方道秋田八郎潟線建設事業
事業関係機関	秋田県秋田地域振興局建設部
調査担当	築瀬圭二、山村剛

【調査概要】

検出遺構		主な出土遺物
奈良・平安時代 溝跡 1条 柱穴様ビット 9基		奈良・平安時代 土師器 須恵器 鉄滓

貝保遺跡は、馬場目川右岸の沖積低地が広がる標高約7mの微高地にある。遺跡周辺には、南西～南約2km圏内に、秋田郡衙と推定される石崎遺跡、それに関連する祭祀遺跡である中谷地遺跡、さらに岩野山古墳群、北西0.8kmには集落跡である開防遺跡がある。またこの馬場目川下流域一帯は、元慶の乱（878年）に際し、中央政府に叛旗をひるがえした秋田十二村の一つ大河村に比定されている地域でもある。

平成13・14・25年度にも県道工事に先立つ調査が行われ、今年度を含んだ過去4年間の調査総面積は2,610㎡である。今年度調査区は、平成25年度調査区南西に隣接した箇所である。検出された遺構は、長さ1.16m、幅11～30cm、深さ5cmの溝跡1条と柱穴様ビット9基、遺物は、遺物包含層が削平されているため出土量は少なく、土師器・須恵器・鉄滓が数点出土したのみである。

4年間にわたる調査の結果、貝保遺跡では8世紀中頃から12世紀初頭まで断続的に集落が営まれていたことが判明した。8世紀代の遺構は堅穴建物跡1棟である。隣接する開防遺跡も8世紀代に出現する集落であり、馬場目川下流域では、本遺跡周辺において中央政府による開発が比較的早い時期から開始されていたと推測される。9世紀以降になると、遺跡中央の長さ40m、幅2.5～3.5m、深さ0.78mの溝で区画した集落が形成される。柱穴様ビットが溝の北側で358基、南側では57基見つかり、溝の北側に建物が集中していたと想定され、溝の南北で土地利用に違いがある。また井戸跡は南側7基に対し、北側では1基のみである。放射性炭素年代測定の結果、10世紀～11世紀前葉と推測される。

貝保遺跡では、底部に木葉痕や砂粒痕が残る土師器甕や黒色処理された土師器環などが出土し、これらの在地的製品とともに律令政府域に一般的なろくろ製品が混在している特徴がある。今後は、周辺の遺跡の調査が進むことで遺跡の性格がより理解されていくものと思われる。



遺跡遠景
(北側から)



平成26年度調査区
(北東から)



平成25年度調査区
溝南側の井戸跡群
(南から)

くぼ 窪遺跡

【調査要項】

所在地	秋田県大仙市大巻字瀬ノ上90
調査期間	平成26年9月29日～10月1日
調査面積	120㎡
遺跡の時代	縄文時代
遺跡の性格	墓地
事業名	雄物川上流河川改修事業（寺館大巻地区）
事業関係機関	国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所
調査担当	谷地薫、佐藤淳

【調査概要】

検出遺構		主な出土遺物
縄文時代	土坑 1基	縄文時代 凹石

遺跡はＪＲ奥羽本線刈和野駅の北西約4.5kmに位置する。横手盆地を蛇行して北流する雄物川は、遺跡付近で流路を北西から南西に変え、左岸には北に張り出す舌状の河岸段丘が形成されている。遺跡はこの河岸段丘の西縁部付近に立地する。標高は17～18mである。調査地の西側に隣接する段丘西縁部は、周囲にくらべて標高が1mほど高い微高地となっており、開田前の旧地表面が残る。調査地は開田により地山面まで削平されている。

調査の結果、土坑1基を検出した。土坑は、直径80cmの円形で、検出面からの深さは30cmである。底面は平坦であるが、北から南にわずかに傾斜している。壁はやや外反して立ち上がり、上端は内湾しない。埋土は5層に分層したが、いずれも黄褐色粘土（地山土）の大塊が多く混じるほぼ同一の土である。埋土下位からは凹石と半分に割った礫とが出土した。本土坑は、石器と分割礫を投入し地山掘削土によって一気に埋め立てられたものである。このような埋没状況や、凹石や分割礫を副葬品ととらえることも可能であることから、本遺構は土坑墓であると推定する。

土坑の帰属時期を推定できる土器の出土はなかったが、確認調査時にはＲＬ単節斜縄文が横位回転施文された縄文時代後期～晩期の粗製深鉢破片の可能性のある土器が出土している。当該期の墓域は、多数の土坑墓が密集し多量の遺物が遺棄されている場合と、その反対に単独あるいは少数の土坑墓が点在し遺物もほとんど出土しない場合とがある。本遺跡の土坑墓は縄文時代後期～晩期に属する可能性があるが、周辺に存在した土坑墓が開田により消失したことも想定されるものの、土坑墓が密集していたとは考えにくい。本来、現状に近い単独もしくは少数の土坑墓からなる墓地であったと推定される。

遺跡遠景
(南から)



調査区全景
(北西から)



土坑墓
(西から)



4 刊行物一覧

遺跡名	藤株遺跡	発掘調査年	24年度	発行年月	26年9月
書名	秋田県文化財調査報告書第494集 藤株遺跡（第2次） ——一般国道7号鷹巣大館道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ——				
内容	遺跡の時代 縄文時代早期～晩期 古代以降・時期不明				
	遺跡の性格 集落跡				
	検出遺構 縄文時代早期～晩期：竪穴建物跡14棟、円形柱穴建物跡9棟、掘立柱建物跡3棟、柱穴列1列、土坑48基、フラスコ状土坑17基、石囲炉1基、焼土遺構6基、土器埋設炉3基、配石土坑1基、配石遺構1基、石器製作関連遺構2基、柱穴様ビット116基 古代以降・時期不明：掘立柱建物跡6棟、柱穴列1列、焼土遺構3基、溝跡5条、畑跡1か所、柱穴様ビット35基				
	出土遺物 縄文時代：土器、土製品、石器、石製品 古代以降・時期不明：かわらけ、珠洲系陶器、青磁、陶磁器、木製品				

遺跡名	弘田棚跡	発掘調査年	23～25年度	発行年月	26年9月
書名	秋田県文化財調査報告書第495集 弘田棚跡 — 第143・145・147次調査報告書 — ——県営ほ場整備事業（本堂城回地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書——				
内容	遺跡の時代 平安時代				
	遺跡の性格 城棚跡				
	検出遺構 第143次 平安時代：材木堀2条、材木堀布掘溝跡5条、溝跡6条、河川跡12か所 第145次 平安時代：材木堀布掘溝跡2条、溝跡42条、土坑11基、柱穴24基、河川跡30か所 第147次 平安時代：材木堀布掘溝跡2条、溝跡1条、柱穴1基				
	出土遺物 平安時代：土師器、須恵器、木製品				

遺跡名	大川端道ノ上遺跡	発掘調査年	25年度	発行年月	27年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第496集 大川端道ノ上遺跡 ——雄物川上流河川改修事業（寺館大巻地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ——				
内容	遺跡の時代 縄文時代 弥生時代 中世				
	遺跡の性格 墓地 貯蔵地 散布地 屋敷跡				
	検出遺構 縄文時代～弥生時代：土坑34基、土器埋設遺構1基、焼土遺構19基 中世：掘立柱建物跡2棟、井戸跡1基、溝跡1条、火葬墓1基				
	出土遺物 縄文時代：土器、石器 弥生時代：土器 中世：陶磁器				

書名	秋田県文化財調査報告書第497集 遺跡詳細分布調査報告書	発掘調査年	26年度	発行年月	27年3月
内容	平成26年度に実施した遺跡分布調査と遺跡確認調査の報告				

書名	秋田県埋蔵文化財センター研究紀要 第29号	発行年月	27年3月
内容	赤星純平 「後期旧石器時代初頭における石斧製作と搬出入の復元－秋田県域を中心に－」 栗澤光男 「秋田県出土のヒスイ製品集成」 村上義直 「最北の郡衙石崎遺跡について」 〈平成26年度講演会「弘田柵跡調査40周年記念講演会」講演録〉 新野直吉 「弘田柵とともに60年」 岡田茂弘 「東北の古代城柵と弘田柵跡」		

書名	弘田柵跡－巨大城柵の実像に迫る－	発行年月	26年9月
内容	弘田柵跡調査40周年記念平成26年度企画展「弘田柵跡－巨大城柵の実像に迫る－」パンフレット。古代の城柵官衙遺跡である弘田柵跡の現在までの発掘調査成果を概説し、弘田柵跡の特徴、性格を分かりやすく紹介。A 4判カラー16頁。		

書名	縄文前期の世界－池内遺跡－	発行年月	26年7月
内容	ふるさと考古学セミナー展示会「縄文前期の世界」リーフレット。縄文時代前期の大規模集落である大館市池内遺跡で発掘された竪穴建物跡、土坑墓、捨て場などその出土品を紹介。A 4判カラー4頁。		

書名	平成26年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料	発行年月	27年3月
内容	平成26年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会の配付資料。平成26年度に県内で発掘調査された遺跡のうち、報告7遺跡、資料掲載の5遺跡の発掘調査成果について、カラー写真と平易な文章で紹介。県内発掘調査遺跡一覧表と遺跡位置図、年表も掲載。		

書名	秋田県埋蔵文化財基準資料 縄文時代土器集成Ⅲ（早期）	発行年月	27年3月
内容	秋田県教育委員会が発掘調査した遺跡から、縄文時代早期の土器を集成し、基準資料となる406点を掲載。解説文・実測図・一覧表で構成。		

5 活用・普及事業

埋蔵文化財センターの中心業務は、遺跡の発掘調査であるが、さらに、その発掘調査成果をはじめ多くの文化財を活用して、秋田の歴史、地域の歴史を県民に発信するため、資料の公開・活用・普及事業を積極的に推進している。今年度も企画展、講演会、バスツアー、セミナーなど各種事業を展開した。

(1) 秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会

秋田県教育委員会及び市町村教育委員会等の実施した発掘調査成果を広く県民に公開し、埋蔵文化財の保護について理解を深めてもらうことを目的に、昭和56年度から報告会を開催している。

今年度は平成27年3月8日（日）、秋田県生涯学習センターを会場に開催し、各地から230名の参加者を得た。参加者は配布資料に目を通し、メモを取りながら熱心に報告を聞いたり、報告内容について質問をしたりしていた。展示会場で写真や遺物を前にして質問をする姿が見られた。また、同時開催した考古学体験教室でも、子どもから大人までそれぞれ興味関心を持って各種体験を楽しむ姿が見られ、盛況のうちに終了した。体験教室への参加者は101名であった。

【報告内容】

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| 1 平成26年度県内発掘調査の概要 | 榮 一郎 主任文化財専門員（兼）調査班長 |
| 2 上埴遺跡（東成瀬村） | 櫻田 隆氏 東成瀬村教育委員会 |
| 3 小勝田館跡（北秋田市） | 村上義直 中央調査班文化財主査 |
| 4 史跡秋田城跡（秋田市） | 神田和彦氏 秋田市教育委員会 |
| 5 史跡弘田柵跡（大仙市・美郷町） | 五十嵐一治 県教育庁弘田柵跡調査事務所主任学芸主事 |
| 6 陣館遺跡（横手市） | 島田祐悦氏 横手市教育委員会 |
| 7 峰吉川中村遺跡（大仙市） | 谷地薫 調査班主任学芸主事 |
| 8 西板戸遺跡（大仙市） | 赤星純平 調査班文化財主事 |

【展示遺跡】※上記の報告に加え、次の5遺跡の出土品、写真パネル等を展示した。

貝保遺跡（八郎潟町） 滝沢城跡（由利本荘市） 井岡遺跡（由利本荘市）
上野Ⅱ遺跡（大仙市） 下桜沢遺跡（横手市）



報告会場の様子



体験会場の様子

(2) 遺跡見学会

埋蔵文化財センターでは、県民に遺構や遺物の見つかった状態を実際に見てもらい、当時の様子を肌で感じてもらうため、発掘調査を実施した遺跡の見学会を実施している。現地では遺物の展示も行い、担当者が調査成果についての詳しい解説を行っている。今年度は、西板戸遺跡・峰吉川中村遺跡（大仙市）、小勝田館跡（北秋田市）の3遺跡で実施し、延べ218名が遺跡を訪れた。地元の方々の関心が強く、参加者には子供連れの家族も見受けられた。

遺 跡 名	日 時	公 開 内 容	参加者
西板戸遺跡 （大仙市）	8月2日（土） 13：30～15：00	中世・近世の集落跡（掘立柱建物跡・柱穴列・ 竪穴状遺構・井戸跡・中世陶器・中国産磁器）	45名
峰吉川中村遺跡 （大仙市）	8月30日（土） 13：30～15：00	古代・中世の集落跡（竪穴建物跡・井戸跡・カ マド状遺構・土師器・須恵器・珠洲系陶器）	100名
小勝田館跡 （北秋田市）	9月27日（土） 13：30～15：00	縄文時代・古代の集落跡（土器埋設遺構・竪穴 建物跡・縄文土器・石器・土師器・須恵器）	73名



西板戸遺跡



峰吉川中村遺跡（西側調査区）



峰吉川中村遺跡（東側調査区）



小勝田館跡

（３）地域報告会

日 時：平成26年11月1日（土） 13：00～15：00

会 場：北秋田市沢口公民館

報告者：築瀬圭二

平成24年、埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した北秋田市藤株遺跡からは、縄文時代後期の竪穴建物跡をはじめ多くの遺構や遺物が見つかった。この調査成果をまとめた報告書が平成26年9月に刊行され、これを契機に同年11月に地域報告会を開催した。発掘調査成果を地元の方々に伝えたい意図から、会場は遺跡に近い北秋田市沢口公民館を借用することにした。

当日は、国民文化祭の各種イベントが開催されていたにも関わらず50名の参加があった。藤株遺跡は、明治時代から考古学界で著名な遺跡でもあり、昭和55年には秋田県教育委員会が発掘調査を実施している。そのせいもあってか、遺跡説明後には参加者による質問が数多く出され、担当職員が一つ一つ回答した。会場の後ろと両袖には、時代や用途別に土器や石器を展示し写真パネルも掲示したが、参加者の多くはそれぞれの資料を熱心に見入っていた。



地域報告会場の様子



地域報告会 展示遺物の様子

(4) 学校（教育）サポート

① セカンドスクール

ア) 利用状況

学校	小学校	中学校	特別支援学校	高等学校	合 計
利用件数	27	5	0	3	35
利用人数	670名	223名	0名	18名	911名

イ) 活動の具体例

- 1) 縄文土器や石器に触れて用途などを学ぶ体験
- 2) 大昔の人々の知恵に学ぶ「石器づくり」
- 3) 特別展示室や整理事業室の見学
- 4) 地域の遺跡や文化財の学習を支援する「授業サポート」
- 5) 発掘現場の見学



大仙市立南外小学校 6年生

ウ) 平成26年度の成果



横手市立金沢小学校 6年生

展示見学と土器や石器に触れて用途などを学ぶ体験をセットにした学習を中心に多くの利用があった。また、センター利用の学校のほとんどが石器づくりを活動に加えている。このほか弘田柵跡の見学を希望する学校には、大仙市のボランティアガイドの会による案内を紹介するなど、地域の史跡や文化財に係わる学習について支援を行った。

② ボランティア・職場体験（インターンシップ）

平成18年度からセカンドスクールの利用の一環としてボランティア活動や職場体験（インターンシップ）の受け入れを始め、今年度は、中学校1件2名、高等学校2件18名の利用があった。

ボランティアは社会貢献や社会参加の活動を通じて豊かな人間性を育むことをねらいとし、職場体験（インターンシップ）は職業に関する理解を深めることを目的として行っている。



県立新屋高校 2年生

③ 出前授業

今年度の出前授業は小学校10件、中学校2件であった。出前授業は、基本的に普段埋蔵文化財センターで行っている「土器や石器に触れて用途などを学ぶ体験」と「地元の発掘調査成果を元にした遺跡や出土品の展示・説明」を組み合わせた授業で、縄文時代を中心に先史から中世にかけての地域の歴史を扱った。出土品を実際に手に取り、地元にも多数の遺跡があることを知ってもらうことによって、児童・生徒の、地域の歴史や文化財への興味・関心を深め、その後の歴史学習に対する意欲を高めることを目的としている。



横浜市立睦合小学校 6年生



大仙市立高梨小学校 6年生



井川町立井川中学校 1年生

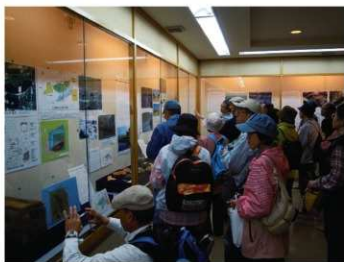
(5) 主催事業

① 企画展

今年度は、弘田柵跡調査40周年記念「弘田柵跡－巨大城柵の実像に迫る－」と題し、埋蔵文化財センター特別展示室を会場に平成26年9月1日～平成27年3月1日の期間開催した。

東北一の規模を誇る巨大城柵とされながら文献史料に一切登場しない「幻の城柵」でもある弘田柵跡は、継続的な調査の積み重ねにより、次第にその姿が見えてきた。

本企画展では、弘田柵跡ならびに関連する遺跡について、実物資料を中心とする出土品等の展示を通じて、それら遺跡の実像を探り、古代史上に果たした役割について紹介した。期間中の入館者数は、1,013名であった。



企画展を見学中の参加者

② 講演会

本年度の講演会は、企画展とも連動させた「弘田柵跡 調査40周年記念講演会」として、平成26年9月7日に大仙市仙北ふれあい文化センターを会場として行った。本講演会は、大仙市教育委員会と美郷町教育委員会に共催いただいた。なお、電車等の利用者の便を考慮して、会場と大曲駅間については大仙市からバスの提供を受けて、参加者の送迎も実施した。参加者は340名であった。記念講演の講師、演題は次のとおり。

秋田大学名誉教授

新野直吉氏

「弘田柵とともに60年」

国立歴史民俗博物館名誉教授 岡田茂弘氏

「東北の古代城柵と弘田柵跡」



講演中の新野直吉氏



講演中の岡田茂弘氏

③ ふるさと考古学セミナー

第1回 「縄文前期の北と南」

期 日：平成26年7月6日（日）

会 場：秋田県立図書館

参加者：45名

講 師：富樫泰時氏（秋田県文化財保護審議会会長）

県立図書館との共催により開催した。講演では、県内の主な遺跡の発掘調査成果を基にしながら、県内で定住集落が出現する縄文時代前期の暮らしや社会、地域的な特色などについて、詳細な資料をもとにしながら



講師の富樫氏

概説していただいた。講演に続き2階特別展示室にて、現在開催中の展示会「縄文前期の世界」の展示品に関するギャラリートークを開催し、展示遺物からこの時期に見られる特徴、北と南の違いなどについて解説していただいた。全体説明終了後も講演内容や展示品について個別に質問する方も多かった。

第2回 「池内遺跡をめぐって」

期 日：平成26年9月13日（土）

会 場：大館郷土博物館

参加者：62名

講 師：櫻田隆氏（元秋田県埋蔵文化財センター所長）

大館市教育委員会との共催により開催した。講演では、池内遺跡が縄文時代前期後半の集落跡であり、ほぼその全容がつかめたことや集落を構成する遺構が環状配置ではなく、列状配置であったこと、海産魚・黒曜石・琥珀・土器など遠隔地からの搬入があったこと、

植物種子・堅果・建築材・木製品・動物遺体が残っていたことなど、発掘調査成果をスライドや資料をもとにしながら概説していただいた。講演に続き美術工芸展示室にて、現在展示公開中の展示品に関するギャラリートークを開催し、展示遺物からこの時期に見られる特徴、北と南の違いなどについて解説していただいた。全体説明終了後も講演内容や展示品について個別に質問する方も多かった。



講演の様子

第3回 「古代のにかほ」

期 日：平成26年10月18日（土）

会 場：仁賀保公民館

参加者：38名

講 師：小松正夫氏（由理柵・駅家研究会代表）

にかほ市教育委員会との共催により開催した。講演では、にかほ市内の古代主要遺跡、古代の烏海山、官道・東山道と駅、駅の実態、蛸方駅と道路、由利地区の想定駅路などについて、スライドや資料をもとにしながら概説し



講演の様子

ていただいた。講演に続き1階エントランスホールにて、現在展示公開中の展示品に関するギャラリートークを開催し、講演内容の補足説明や展示資料をとおして考えられる各遺跡の特徴などについて解説していただいた。全体説明終了後も講演内容や展示品について個別に質問する方が多かった。

④ ふるさと考古学セミナー展示会

ふるさと考古学セミナー展示会は埋蔵文化財を活用した展示をセンター以外の施設でも行い、より広く県民に公開することによって地域の歴史や文化、埋蔵文化財に対する理解を深めていただくことを目的としている。今年度はふるさと考古学セミナーに合わせて県内3会場で開催した。第1回は平成26年7月4日（金）から8月17日（日）まで、県立図書館を会場に「縄文前期の世界」と題した展示を行った。展示は縄文時代前期を代表する大館市池内遺跡を中心に構成した。第2回は8月22日（金）から9月24日（金）まで、大館市大館郷土博物館を会場に第1回と同様の展示を行った。第3回は10月3日（金）から10月29日（水）まで、にかほ市仁賀保公民館を会場に「古代のにかほ」と題した展示を行った。にかほ市平沢地区周辺で発掘調査された前田表遺跡、前田表Ⅱ遺跡、家ノ浦遺跡、家ノ浦Ⅱ遺跡、阿部館遺跡、横枕遺跡、清水尻Ⅰ遺跡、清水尻Ⅱ遺跡、上谷地Ⅱ遺跡の古代（平安時代）に加え中世（鎌倉・室町・戦国時代）の出土品や写真パネルを中心に構成した。各展示会期間中にふるさと考古学セミナーを同会場で開催し、セミナー終了後に展示解説を行った。セミナーから引き続き参加された見学者が多く、説明に耳を傾けながら熱心に展示に見入り、質問も多く出るなど盛況であった。開催中4,364人の来場者があった。また、県立図書館、大館郷土博物館、仁賀保公民館には広報や運営等で多大な協力をいただいた。



第1回展示会場（県立図書館）



第2回展示会場（大館郷土博物館）



第3回展示会場（仁賀保公民館）



展示解説の様子

⑤ 古代発見！バスツアー

遺跡や史跡をバスで巡回し、郷土の歴史や文化財について理解を深めてもらうとともに、埋蔵文化財センターの活動を広く知ってもらおうという事業である。今年度は、秋田市発着で「春の古代城柵探訪コース」を2回、「秋の古代城柵探訪コース」を1回実施した。

新聞・チラシ・ホームページで広報したが、昨年度より2回少なくなった分、毎回定員を上回る応募となり、抽選で参加者を決定した。第1回、第2回は中型バス、第3回は大型バスを利用した。

回	期日・参加人数	内 容 ・ コ ー ス
第1回	6月10日(火) 【参加者25名】	由理柵推定地とされる由利本荘市内の古代遺跡を探訪。ガイドはセンター職員が行い、井岡遺跡、客殿森遺跡では本荘郷土資料館小松正夫氏に解説をいただいた。
第2回	6月12日(木) 【参加者24名】	・県生涯学習センター→井岡、客殿森遺跡→上谷地、新谷地遺跡→道の駅西目(昼食・休憩)→横山遺跡→県生涯学習センター
第3回	10月7日(火) 【参加者43名】	県南の古代城柵を探訪。ガイドはセンター職員が行い、陣館遺跡では横手市教育委員会職員に解説をいただいた。 ・県生涯学習センター→陣館遺跡(横手市)→埋蔵文化財センター※(昼食・休憩)→弘田柵跡(大仙市・美郷町)→県生涯学習センター※企画展「弘田柵跡－巨大城柵の実像に迫る－」を見学。

春の古代城柵探訪コースでは、「由理柵・駅家研究会」が発掘調査を実施し、掘立柱建物跡や竪穴建物跡が見つかった井岡遺跡を中心に、古代由理柵推定地の一つである旧西目潟東岸の遺跡を巡見。また、もう一方の候補地で、古代の大型掘立柱建物跡や水田跡、大量の祭祀遺物などが発見されている南内越地区の上谷地遺跡、新谷地遺跡、横山遺跡を見学し、参加者のみなさんにも由理柵がどこにあったのかを推理していただくツアーとなった。



第1回 井岡遺跡の見学



第1回 上谷地遺跡の見学



第2回 新谷地遺跡の見学



第2回 横山遺跡の見学

秋の古代城柵探訪コースでは、横手市教育委員会が後三年合戦の金沢柵推定地の一部として調査を実施している陣館遺跡発掘現場を訪れ、新たに発見された四面庇の大型掘立柱建物跡などを巡視した。また、当センターで、弘田柵跡調査40周年記念企画展を見学するとともに、実際に弘田柵跡を歩いて回り、これまでの調査研究や史跡保存整備の成果について紹介した。



第3回 陣館遺跡の見学



第3回 陣館遺跡の見学



第3回 埋蔵文化財センターの見学



第3回 弘田柵跡の見学

（６）共催・機関連携等による普及事業

① 農業科学館まつり

7月13日（日）に開催された「農業科学館まつり」で、協力団体の一つとして「縄文時代の遊びと生活体験」のコーナーを設け、訪れた家族に石器づくりや縄文文様染め、弓矢体験を楽しんでもらった。それぞれ10～15分程度の体験で、埋蔵文化財センターの活用事業を知ってもらうためのものである。事前のPR効果もあり、例年を大きく上回る延べ262人の参加者があった。今年度は、幼児から小学校低学年及びその家族が多く、弓矢体験や縄文文様染めに人気があった。



縄文文様染め



石器づくり

② 土器に生ける秋の草花展

県立農業科学館との共催で、10月11日から10月26日まで開催した。今年度はこれまで公開したことがなかった池内遺跡の大型の縄文土器10点及び関連するパネル資料を展示した。秋の草花は東大曲小学校6年生のみなさんに生けてもらい、大きな土器にふさわしい見応えのある作品ができあがった。国民文化祭の期間中ということもあって、地元だけでなく、広く県内外から多くの見学者が訪れた。



農業科学館展示会場

③ あきた県庁出前講座

月 日	要請団体	内 容	番号	講 師	会 場
2月17日(火)	北秋田市 中央公民館	「出土品からわかる秋田の歴史」 参加人数 40名	169	資料管理活用班 主任文化財専門員 (兼)班長 高橋 学	北秋田市 中央公民館
2月25日(水)	中央ナイス ミドル カレッジ	「考古学をしよう」 参加人数 35名	171	資料管理活用班 主任文化財専門員 (兼)班長 高橋 学	サンパル秋 田(秋田市)

④ 美の国アクティブカレッジ「発掘！考古ゼミ」

県生涯学習センターとの機関連携事業である。県の教育機関どうしが連携し、相互に特徴を生かすことによって活性化を図ることをめざしている。今年度も秋田県生涯学習センターを会場に4回開催し、秋田市を中心に多くの受講者を得ることができた。

回	期 日	講演テーマ・参加人数	講 師
第1回	11月14日(金)	ヒスイのお話 【参加者 28名】	資料管理活用班副主幹 栗澤光男
第2回	11月21日(金)	藤株遺跡からみた縄文世界 【参加者 35名】	中央調査班学芸主事 築瀬圭二
第3回	11月28日(金)	出土文字から見た古代の秋田 【参加者 38名】	調査班文化財主事 伊豆俊祐
第4回	12月5日(金)	発掘調査40周年記念 弘田柵跡の発掘調査と成果 【参加者 24名】	弘田柵跡調査事務所調査班 主任学芸主事 五十嵐一治

⑤ 親子で作ってみよう縄文土器教室

青少年育成大仙市民会議（事務局：大仙市教育委員会生涯学習課）の主催事業に、協力団体として参加し、縄文土器づくりの指導を行った。

第1回 7月25日(金) 秋田県立農業科学館（大仙市） 参加者 31名

第2回 7月30日(水) 太田公民館（大仙市） 参加者 8名

（7）その他

① 所蔵資料・古代体験キット・ビデオの貸し出し実績

年 度	24年度	25年度	26年度
所 蔵 資 料 貸 出 数	25件	27件	18件
キ ッ ト 貸 出 数	3件	5件	2件
ビ デ オ 貸 出 数	0件	0件	0件
火 起 こ し 貸 出 数	1件	2件	3件

※所蔵資料貸出内訳

資 料 種 別	使用目的（複数利用含む）		
	展示公開	書籍等掲載	研究他
遺 跡 出 土 品	7件	2件	1件
フ ィ ル ム 写 真 デ ー タ	0件	0件	0件
デ ジ タ ル 写 真 デ ー タ	6件	7件	1件
そ の 他	0件	2件	0件

② センター施設の開放と展示

見学者によりよく身近に埋蔵文化財を理解していただくために「いつでもギャラリートーク」を行っている。これは、平日の開館時間に来所された見学者には、要望に応じて専門職員がいつでも展示品の解説を行うというものである。さらに展示ケースを開けて実際の遺物に触れていただき、展示品を「見る」だけでなく、古の息吹をじかに「感じて」いただけるようにしている。ギャラリートークの所要時間は見学者の希望に合わせて15～30分程度である。また、企画展パンフレットや過去の印刷資料なども自由に持ち帰れるようにしている。

	開館時間	見学可能箇所
平 日	9:00～16:00	特別展示室・第1収蔵庫(※)・整理室(※)・中央調査班展示室
土・日・祝日	9:00～16:00	特別展示室

(休館日：1月1日～3日、成人の日、建国記念の日、春分の日、12月28日～31日)

※は職員の案内によって可能

③ 図書整理・図書一般公開

昨年度から継続して図書の整理、配架を行い、図書の利用環境を整備した。また、全国遺跡資料リポジトリ事業における秋田県遺跡リポジトリ公開用電子データとして、秋田大学附属図書館に今年度本センターで刊行した発掘調査報告書のPDFデータを提供した。また、秋田県立図書館デジタルアーカイブ公開用電子データとして、本年度の企画展パンフレット「払田柵跡～巨大城柵の実像に迫る～」のPDFデータを同図書館に提供した。これらのデータは、各機関で準備が整い次第、インターネット上で公開される予定である。

秋田大学附属図書館「秋田県遺跡リポジトリ」アドレス：<http://rar.akita.nii.ac.jp/>

秋田県立図書館「デジタルアーカイブ」アドレス：<http://da.apl.pref.akita.jp/maibun/>

(8) 講演・研究論文等

(平成26年7月)

〈発表〉赤星純平 「後期旧石器時代初頭における石斧製作と移動生活の復元的研究」 秋田県石器文化研究会

〈発表〉高橋 学 「木都の誕生」第12回考古学と中世史シンポジウム 帝京大学文化財研究所

(平成26年8月)

〈論文〉利部 修 「秋田県・払田柵跡」『考古学ジャーナル』第659号 ニューサイエンス社

(平成26年10月)

〈発表〉高橋 学 「東北地方日本海側における近世墓」平成26年度環日本海文化交流史調査研究集会 石川県埋蔵文化財センター

(平成27年3月)

〈論文〉赤星純平 「旧石器時代初頭における石斧製作と移動生活の復元的研究」『駿台史学』第154号 駿台史学会

6 運営協議会

第1回 平成26年6月18日(水)

委員：石郷岡誠一委員(委員長)、高橋茂則委員、須田喬委員、高橋玲子委員、山崎裕子委員、
中山厚子委員、池田光英委員、工藤促委員

事務局：京所長、小林副所長、久米総務班長(進行)、高橋資料管理活用班長、山田学芸主事(記録)

冒頭に所長から、今年度の発掘調査は5か所が予定されていること、活用関係では9月に弘田柊跡40周年記念の講演会を開催することが事業紹介された。また、今回の協議会では「小学校の授業での利用促進」についての提言をいただきたい旨が話された。続いて石郷岡委員長から弘田柊跡の調査成果および県内の調査成果について多方面からの理解を得、子ども達が埋蔵文化財に親しむための方策についての意見を求める旨の挨拶がされた。そして、事務局からの(1)平成26年度発掘調査事業、(2)同保管活用事業、(3)セカンドスクールの利用実態と課題、の報告・説明の後、「小学校の授業での利用促進を図るために」をテーマに協議に入った。委員からの提言は以下の通り。

(1) 域内(大仙市・横手市・仙北市・美郷町)利用率をあげるための具体策

①地域関係機関との連携

- ・学校にはいろいろな出前授業や出前講座の要請がある。校長会、地域の社会科教育研究会で実施可能な内容を提示する。
- ・教育事務所と地域の教育委員会に協力していただく。

②教職員へのPR活動

- ・教職員の研修会等を埋文センターで開催し、教職員全般に直接説明する機会を設定する。その際、社会科以外でも整理作業など職業見学もできると良い。
- ・職場体験等をホームページやパンフレットで広報する。

③授業内容の工夫

- ・出前授業の目標や効果を明確にするとともに、継続して利用している学校のアンケートを分析し授業内容に活かす。
- ・教科書と埋文センターの体験がイコールでなくとも、郷土の歴史の成り立ちに子供たちが触れ理解できるのであれば、ふるさとへの愛着を深めることにつながるのではないかと。

(2) 大館市内小学生向けの「夏休み発掘体験」を平成27年度事業に検討

- ・夏休み発掘体験は素晴らしい内容で継続して取り組むと良い。ホームページでPRすると小・中学生だけでなく、一般の方も好きな人が全国から集まるのではないかと。
- ・秋田城跡では調査期間の中で土器が出土する時期を選び発掘体験を実施しているが、秋田市では参加者が多くなるため、市の広報に定員を明示して募集している。

その他、地域向けのPRとして「秋田こまち路ドライブマップ」「秋田県 仙北エリア 夏たび」に弘田柊跡が掲載されており、観光振興に役かっていることが紹介された。

委員からの提言を受けて、事務局からは実物に触れるだけでなく魅力ある授業内容を工夫することで、ふるさとへの愛着を深めることにつなげてゆくこと、夏休み発掘体験は平成27年度に大館市の片

貝遺跡で試行する予定であり、その結果を踏まえ継続・拡大してゆくことを答えた。

第2回 平成27年2月18日(水)

委員：石郷岡誠一委員(委員長)、佐藤厚子委員(副委員長)、高橋茂則委員、佐藤康裕委員

高橋玲子委員、山崎裕子委員、中山厚子委員、池田光英委員、工藤侃委員

事務局：京所長、小林副所長、久米総務班長(進行)、榮調査班長、利部中央調査班長、

高橋学資料管理活用班長、堀川学芸主事(記録)

会議冒頭、所長より3月8日の発掘調査報告会を除き今年度の主な事業が終了したこと、発掘調査では大きな事故もなく、また9月に行われた弘田柵跡調査40周年記念講演会も盛会裡に終了できたことが報告された。また、先回の協議会での提言を受け、地域の社会科教育研究会事務局や定例校長会で当センターのセカンドスクールの利用にむけての広報を行ったことも報告された。そしてその結果、地元教育委員会の協力を得ながら、小学生の発掘調査中の遺跡見学会を開催できたことに言及し、それら事業が委員各位からの指導、協力のもとに達成できたことの謝辞が述べられた。続いて石郷岡委員長より今回も学校支援の様々な活動実績や地域での埋蔵文化財活用事業実績が多く報告され、それを受けて来年度計画に対するご意見をいただくことになるので協議方よろしく願いたい旨の挨拶があった。

発掘調査事業については峰吉川中村遺跡、西板戸遺跡、窪遺跡、小勝田館跡、貝保遺跡について概要が報告され、活用事業についても遺跡見学会、地域報告会、学校教育サポート事業等について報告された。そして来年度の活用事業計画についての説明を行い、協議に入った。委員からの主な提言については以下の通り。

(1) 平成27年度活用事業計画について

① ふるさと考古学セミナー

- ・市町村教育委員会と連携しながらの広報等集客の工夫をする。
- ・アンケートにより、テーマや内容を検討、反映させていく。

② 古代発見バスツアー

- ・秋田市発着のほかに、途中乗車と降車により、秋田市以外および見学地周辺の参加者にも対応を図る。
- ・見学コースに発掘調査現場や地元の博物館を入れてほしい。

(2) 小中学校での埋蔵文化財活用

貸し出しキットの活用について

- ・実物を見ることで、興味のある子どもにはとてもいいきっかけになるので、すごく有効な教材である。
- ・使い方を紹介する映像があると良い。
- ・出前授業の時に活用し、キットの資料をもとに説明や解説をすると良い。キットの貸出だけの件数を増やすというよりも、出前授業と連動した形で活用する機会を増やしていった方がいい。
- ・キットの借用、返却について、教員がセンターまで来ることが難しい場合もある。

- ・教員の負担にならないような方法（宅配便等）の工夫を検討してほしい。
- ・出前授業等、機会のあるたびに学年部や社会科担当職員にキットを紹介し、使い方を教えてほしい。
- ・今後も校長会や社会科教育研究会にて周知してほしい。
- ・学校現場に対するさらなるアピール、広報活動等を学校と連携し検討すべきである。

（３）活用事業の市町村、大学との連携について

- ・（大学）近くでの発掘調査があれば、その機会に調査の実地体験やひいては合同調査まで可能ではないか。発掘技術面での大学教育のサポートができる。
- ・地域の小学生の夏休みの学習会でこれまで大学の理科系学生の協力を得ながら、特別授業を行ってきた（同時に複数グループ開催の大学生が教える理科授業）。国際教養大に新しく考古学の専任教員が配置されたのであれば、この学習会を学生からの体験的な考古学教室にすることも考えられるのではないか。埋蔵文化財センターがその仲立ちをとれば、小学校教育での埋蔵文化財の活用と大学連携の一举両得になる。

（４）その他協議題以外での意見等

- ・埋蔵文化財の発掘調査の成果は地域で保存、公開されて初めて大きな意義があると思うので、大館郷土博物館の展示室にセンターの常設展示コーナーを設置し、主に県北地区の出土品を展示できないか。市内では今後発掘調査が続くので、展示施設の設置により埋蔵文化財に対する関心も高まると思う。
- ・資料「秋田県仙北エリア冬たび 2014～2015」、「秋田こまち路ドライブマップ2014～15冬編」の紹介。

以上の提言を受け事務局からは、地域の展示施設を活用しての普及活動、貸し出しキットの学校への配達など、今後の活用事業、学校教育サポート事業に有益な意見をいただいたことの謝辞を述べ、次年度に反映させてゆきたい旨答えた。

V 平成26年度研修事業

1 研修受け入れ

(1) 中高生インターンシップ

実施日：平成26年7月30日～8月1日

研修者：秋田県立大曲工業高校2年4名

実施日：平成26年8月5日～8月6日

研修者：大仙市立仙北中学校2年1名



所長と大曲工業高校生の懇談

2 職員研修

(1) 職員技術研修会

会 場：協和市民センター・峰吉川中村遺跡発掘調査現場

テーマ：沖積地遺跡の堆積環境

実施日：平成26年7月25日

講 師：辻本裕也（パリオ・サーヴェイ株式会社）

研修者：県埋蔵文化財センター職員・県教育庁文化財保護室職員

参加者：黒沢健明・赤坂朋美・工藤海（鹿角市教委）、嶋影壮憲（大館市教委）、播摩芳紀（能代市教委）、齋藤浩志（大仙市教委）、亀井崇晃（美郷町教委）、佐々木健・佐藤知也（横手市教委）

(2) 埋蔵文化財担当職員等講習会【会場：青森県】

実施日：平成26年9月3日・4日

研修者：村上義直（中央調査班）

(3) 奈良文化財研究所文化財担当者専門研修（遺跡情報記録調査課程）

実施日：平成26年12月16日～12月19日

研修者：赤星純平（調査班）

(4) 所員研修報告会【会場：中央調査班】

実施日：平成27年1月26日

研修者：県埋蔵文化財センター職員

(5) 木簡積読研修【国立歴史民俗博物館】

実施日：平成27年3月23日

研修者：伊豆俊祐（調査班）

(6) 防災・交通安全・健康講話【本所・中央調査班】

実施日：平成26年4月25日（防災・避難訓練／本所）

実施日：平成26年6月4日（防災・避難訓練／中央調査班）

実施日：平成26年4月18日、12月3日（交通安全／本所）

実施日：平成26年4月30日、12月16日（交通安全／中央調査班）

Ⅵ 職員名簿

職 名	氏 名
所長	京 久 夫
副所長	小 林 克

総務班

副主幹（兼）班長	久 米 保
主査	柴 田 真 希
主任	今 田 陽 子
非常勤職員	柴 田 陽一郎

調査班

主任文化財専門員（兼）班長	榮 一 郎
主任学芸主事	谷 地 薫
（兼）主任学芸主事	五十嵐 一 治
学芸主事	佐 藤 淳
文化財主事	伊 豆 俊 祐
文化財主事	赤 星 純 平
文化財主事	富 樫 那 美

中央調査班

主任文化財専門員（兼）班長	利 部 修
主査	鈴 木 菜穂子
学芸主事	築 瀬 圭 二
学芸主事	関 向 昌 之
学芸主事	袴 田 道 郎
学芸主事	山 村 剛
文化財主査	高 橋 忠 彦
文化財主査	村 上 義 直
文化財主任	山 田 祐 子
非常勤職員	泉 明

資料管理活用班

主任文化財専門員（兼）班長	高 橋 学
副主幹	栗 澤 光 男
学芸主事	小 徳 晶
学芸主事	山 田 徳 道
学芸主事	堀 川 昌 英

秋田県埋蔵文化財センター年報33

(平成26年度)

発 行 平成28年3月

秋田県埋蔵文化財センター

〒014-0802 大仙市弘田字牛嶋20番地

電 話 (0187) 69-3331

F A X (0187) 69-3330

〔URL〕 [http://www.pref.akita.jp/
gakusyu/maibun_hp/index2.htm](http://www.pref.akita.jp/gakusyu/maibun_hp/index2.htm)

